

Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

朝食勉強会



2012年10月25日(木)、ザ・ペニンシュラ東京において朝食勉強会を行いました。「新ソフトウェア産業ビジョン～スマートイノベーション時代、日本企業の進むべき道は?」と言うテーマで、当クラブの和田会長自ら、熱い思いをお話し頂きました。

今回のシーテックでは、インターネットに関わるデバイスが統一されてマルチデバイスになっていき、クラウドというソフトウェア産業の構造を根本的に変えてしまう大転換が始まりつつある様子がうかがえます。産業革命は今から200年前にもつくりととも大きく変わってきたように、今の変化はサービス業の産業革命がこれから起きていくのではないかと考えております。そのきっかけとなったのは、ステイブジョブスのiPhoneであり、我々の生活スタイルが大きく変わりました。パソコンを家で開かず、持ち歩いて検索できるようになりました。まさにサービス産業の革命が行われつつあり、どのように変わっていくかをお話いたします。

コンピュータは、1950年がスタートです。IBMは1911年創業、その後50年間は集計機の事業、1950年ごろにプログラムという概念ができ、大型の汎用機によるデータ処理、1980年にステイブジョブズによりパソコンが誕生。彼が集中という概念を分散に変えました。1990年代になると汎用機とパソコンが融合し、どこからでもアクセスできるようになりました。

これが第3の波であり、コンピュータの概念が変わりました。

マルチデバイス(スマホ)などの利用が生活スタイルやワークスタイルを変え、サービスの産業革命を起こしつつあります。そういう変化が社会で起きているときに何が大切なのか。日本の産業の過去を振り返ると応用技術の歴史です。自動車産業を成長させてきた原動力は、応用技術、顧客志向に

立ったもの作りの姿勢です。

顧客志向の高いものを発想するプロデュース力こそがこれからのソフトウェア産業、サービス業においてはより重要となります。ITを活用して新しい発想をプロデュースしてゆくサービス産業構築こそが日本が得意とするものである。

現在の日本のソフトウェア産業は50%が受託形態であり、もっとプロダクト分野にシフトしていかないと産業そのものが成長していくのは厳しい。日本はサービス産業にしても製造業にしても典型的な垂直統合構造になっている。

デジタル化が進むと、レイヤー化(水平構造)が進んでいきます。

集中化が進んでいくと自社工場で作るよりも買った方が安くなる。iPhoneがもたらした変革はレイヤー化です。それまでは携帯というデバイスとサービスが一緒になっていたが、iPhoneはデバイスとOS、その上にソフトウェアをダウンロードして携帯、メールが機能として使える仕組みを作った。部品化することで縦から横の構造に転換させた。

製品価値を考える中で自分の強みであるものを選択と集中をしてこだわりを持つことにより、レイヤー化の中でイノベーションを起こすことで、全体の価値をも変えていくことができる。

レイヤー化した戦略で自社の戦略エリアをレイヤーに集中することによってブラックボックス化できるし、他社とも組みやすくなる。

役割分担と選択と集中。役割分担と協力ということで成長させることによって製品強化ができる。自社の強みにフォーカスし、顧客が求める製品価値を提供する。アップルは自社の極めて優れたテクノロジー、特許はあまりない。世界の技術を集めてお客様の求めるものをつくりあげた。

イノベーションはどこで起こっているのか。アップルはiOSを使って、iPhoneをつくった。グーグルの

検索機能は全世界の人が毎日利用している。何百万台というサーバを仮想化して集中処理した結果を返している。フェイスブックも同じ。

ソフトウェアこそがイノベーションのポイントです。ソフトウェアをどう活用して、製造業の中に最もデジタル化できる、或いは、重要な部分、マーケティング部分を変化させていく。

ものづくりの中にソフトウェアを組み入れ、マーケティングの中に取り入れて、ビジネスモデルをIT化を活用して変革していくことが重要なポイントになっている。

日本の強さはソフトウェアの品質、応用技術、決め細やかさ、顧客志向ということがキーワードになると思われます。

日本は品質の高いので、標準規格を作ったりして、ソフトウェア環境のプラットフォーム(基盤)を作らましようという動きが始まっている。

お客様満足度、顧客主義が重要である。海外はそういうものは引き継がれない。応用技術は長期戦になると日本はお客様志向を原点としてお客様を見ておけばすべての答えは与えられる。プラットフォームにフォーカスし、選択と集中を行っていく。

～講師プロフィール～

和田成史

1952年生まれ。

1975年、立教大学経済学部卒業。

1976年、大原簿記学校勤務。

1980年、株式会社オービックビジネスコンサルタント設立。同社代表取締役社長(現在)。

1999年、(社)日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会(JPSA)理事。

2000年、JPSA 常任理事。

2006年、JPSA(現CSAJ)会長就任。

立教経済人クラブ 会長。

一井関 由子 H7国比一

一徳澄 範光 S62数一

2012年度サマーインターンシップ実施報告



経済学部では、授業「インターンシップ」を開講しております。夏休みを利用したのインターンの受け入れは今年度で8年目となりました。今年度も多くの企業様に受け入れていただきました。

そこで、今号と次号にわたり、産学連携委員長の上小牧政章氏(H17年院ピ)が各企業様に行っていただきましたインタビューと派遣された学生へのアンケートを掲載させていただきます。



●ご担当の管理本部総務部秘書室 奥野明子様へのインタビュー

—インターンシップは何時からですか？

資料を見ますと2007年分がありますので、それ以前からでしょうか？当時二つの会社があり、両方で受け入れをしていました。ちなみに2007年のインターンシップで藤田さんという方を受けていたのですが、とても良い会社だということで、彼の妹さんがバイトで来ています。これも何かの縁でしょうか？

—きっかけは？

当初の経緯は、経済人クラブから立教大学から直接かは私には分かりませんが、須永先生から毎年ご紹介を受けています。

—どのような業務をしていましたか？

今年から変わったアプローチで、今までは、営業・商品開発・管理などすべての部署を万遍なく広く浅く体験してもらっていたのですが、そうするとこの部署に行っても、例えばファイリングだけをするような雑用で終わってしまう可能性が時期的なことあって、一昨年の立教大学でのインターンシップの授業で成果をプレゼン発表する場があり、聞きに行ったところ、他社様でいきなり営業に放り込まれテレポをし、2週間で一件でも受注してこいみたいな話を聞いて、一つのことに深く取り組み達成感を感じても頂くことも良いのかなということで、商品

部でのプロジェクトの仕事をしてもらいました。ネットなどで和物などの商品を扱っているお店を調べて、そこに電話をしアプローチをして、何かの成果を上げるという仕事に取り組んで頂きました。一つのミッションに集中するという点で例年とは違うアプローチのやり方を体験してもらいました。

—感想は？

初めは電話で話すことなども苦手のようにでしたが、やってみれば出来ちゃったということをもともと感想として言っていましたし、事実インターンシップの初日に話し方などを変えたほうが良いと弊社の代表も指摘したところ、本人も素直に受け入れて随分と良くなりました。

—最後に御社のPRを

100年後の未来に対して責任を持つということが、私どもの企業ポリシーです。今いる私達だけではなく、子孫に対してきちんと責任もつ、100年後、より良い未来になっているために私どもの商品やアプローチが道筋の形になっていたと思います。

●派遣された経済政策学科3年金武香保里さんのアンケート

①インターンシップ実習前の印象や期待など
最初に事前訪問に伺った際に「電話対応が苦手です」ということをお話したら、「ではインターンでそれを克服しよう」と言われました。そのため新しいことに挑戦できる期待もありましたが、正直不安のほうが大きかったです。

②インターンシップ実習後の感想
普段の学生生活では経験できない社会人の世界は新鮮で、社員のみなさんの仕事を間近で拝見して様々なことを学べました。インターン前よりも一回り自分が成長できたような気がします。

③今後インターンシップを受講しようとする学生、あるいは受け入れ先企業へ一言
まだ学生の身である私にも親身に、そして真剣

に向き合ってくださった受け入れ先の企業の方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これで終わりにせずにこの貴重な出会いを大切に、今後も連絡をとりあってたくさんのお話を聞かせて頂けたらと思います。

(株)三栄コーポレーション様



●ご担当の取締役 水谷裕之様と総務部長 斉藤恵美子様へのインタビュー

—インターンシップについて？

インターンシップの受け入れは、立教大学の学生のみで、OB(水谷会長)として、何か貢献出来ればと思い行っています。

—受け入れた学生にはどのような業務を依頼しましたか？

万遍なく色々な部門を経験して頂きました。家具・家電・服飾・家庭用品・その他など5部門での仕事です。その5部門の営業です。インターンシップに来る前に、2週間の体験後にこれは出来ていましたという目標を立ててもらいました。仕事を楽しむ。3つ以上自分の目で盗み見る。コミュニケーションを大事にするなどです。その目標が達成できるような、カリキュラムを営業の部門で作りました。実際には、発注から現場への同行営業で業務終了後は、毎日業務レポートを作成し、問題点の有無、それに対するアドバイスなどをし、それに対する感想文を作り一日が終わるようなことをしました。具体的な成果物では宣伝で使うパンフレットを企画するという意味で

作り、実際にこれを使用したりもしました。

—感想は？

私としてできることは、キャリアに対するアドバイスなので、感じたことを伝えました。私の姪も大学生なのですが、今の人たち全般的に言えるのかもしれませんが、働くために生きるという意識が高校生から強くなるというか、どういう仕事に就きたいとか、将来の目標は何？資格を取りなさいとか言われることが多いので、自分を見つめる時間があまり少ないのではと気づいて、ちょっと待てと、仕事をするということは、自分を生きるということで、その前の自分の良いところは何か？それをどう伸ばすか？そして、その得意としている能力を伸ばし幸せを感じる場所が職場ではと思っているのです。そのことを伝えたいところ何か開眼されていたようです。

—最後に御社のPRを

私どもはメーカー商社であるということです。メーカーの泥臭い現場に自ら足を運び、ともに良い商品を企画しそして作る。付加価値を求めるとそこまでやらなければなりません。それが、認められ、一例ですが、良品計画さんの商品のトップシェアであり、その評判を聞き、取引をしてもらえないか？という問い合わせが来ています。

●派遣された経済学科3年石田茉優さんのアンケート

①インターンシップ実習前の印象や期待など
インターンシップを受講するにあたって、普段の学生生活では知り得ない自らの社会的評価と、学生の今から身に付けておくべきことを知る、というふたつの目的を重視しました。経済学部の授業で夏休みを利用して2週間という比較的長期の就業体験ができることが一番の魅力でした。

②インターンシップ実習後の感想
2週間の実習を終えて、自己実現に向けた心の準備がとても大切だということを実感すると共に、仕事の楽しさ・醍醐味を身近で働く社員さんから教えていただき、またその楽しさを自分も享受できたように思いました。私の場合は発注書の作成から商談の同行まで、部内の営業の業務をほぼ全て経験させていただいたので、ひとつひとつの業務とそこで教わった仕事観が、これからひとりの社会人として社会生活を送っていく上での大きな糧になりました。

③今後インターンシップを受講しようとする学生、あるいは受け入れ先企業へ一言

インターンシップは、学生の今だからこそ経験する価値のある貴重な体験・時間になります。今の自分を見つめ直し、これから先の自分を思い描く上で、インターンシップで得た経験と社会人の方にお話ししていただいたことはどんなテキストよりも心に響くものであり、一生大切にしたいと思える自分の宝になります。この機会を利用して、積極的に自分の経験値を高めてほしいと思います。

(株)フジサワ・コーポレーション様



●ご担当の専務取締役 澤田剛治様へのインタビュー

—インターンシップは何時からですか？

今回初めてです。

—そのきっかけは？

後輩で経済人クラブに入会している方からこの制度を紹介して頂きました。すぐに興味があったのですが、その時点ではまだ私も経済人クラブの会員ではなかったため、同時に並行しながら進めました。

—ここは立教に近い場所にありませんか？

そうです。私自身もこの立教へ歩いて行ける距離で生まれ育ち、小学校から大学院までお世話になりました。

—受け入れた学生にはどのような業務を依頼しましたか？

2週間ほどですが、私どもはサイン・ディスプレイの仕事を行っています。そんな中、専門知識が必要な部署が多いので、一人で仕事を完結するのは当然難しいということから、1週間交代で営業マンについてアシスタント的な仕事をして頂きました。ですので、営業の現場に出向き、持ち帰りそして制作の担当との打ち合わせなども一緒に行いました。滅

多に経験できないと思うのですが、現場へのディスプレイの設置も手伝って頂きました。商店や駅などに設置するので、営業時間外に行わないといけいので、深夜などになるのですが、1、2回ほどですが、本人の了解を得て仕事をして頂きました。最後は、好きなものを作っていいよ、ということで、大型インクジェットを使った、サークルのメンバーの写真を制作してパネルに貼っていたようです。

—感想は？

始めの印象は、今時の学生というか少し緊張していたのかなという感じですが、明るくなり、特にお客様の接し方やマナーに関しては、初めから出来ていて、会話の中から親御様から厳しく育てられたのかなとも思いました。そして、本当に良い子が来て頂いて助かりました。余談ですが、その後9月13日に当社で展示会を行ったのですが、1日それも手伝ってもらいました。

—最後に御社のPRを

大きなものから小さなものまで、サイン・ディスプレイの企画・制作・施工までを当社では扱っています。しかも62年です。もしそのようなニーズ、ご相談など御座いましたら当社にご連絡下さい。

●派遣された経済学科2年大竹智之さんのアンケート

①インターンシップ実習前の印象や期待など
自分が将来どんな職業につきたいかははっきりしない中、2年生という比較的早い段階でインターンを行うことによって、自分の将来像を描く上でのヒントが得られるのではないかと考えていました。

②インターンシップ実習後の感想
実習先では、事務作業よりも営業回りや現場に出る作業を中心に経験させていただいたので、自分の今まで知らなかった世界を知ることができたと思います。また、最後に多くの企業の方の前で一人で発表できたときは、自分の成長を実感できた瞬間でした。

③今後インターンシップを受講しようとする学生、あるいは受け入れ先企業へ一言
今後インターンを志望する学生には、単にその期間だけのつながりと考えるのではなく、終わったあともアドバイスを頂けるような関係を企業の方と築いていけるといいと思います。また企業の方には、学生一人ひとりの特徴をつかみ、お客さんとしてではなく、一社会人として様々なことを経験させていくことが必要だと思います。

—吉原 伸隆 H4営—

理事会

去る11月6日、新橋亭におきまして2012年度第2回理事会が開催されました。

当日は、2012年度上期における各委員会の活動報告と、財務報告が行なわれ、その内容が承認されました。

またこの度、安食事務局長が一身上の都合により辞任されることになり、それに伴う補欠選人について議事が行なわれ、井口一世委員長が新事務局長に選任されました。

続く懇親会ではみなさん新橋亭の素晴らしい料理に舌鼓をうちつつ、和田会長はじめ出席していただいた顧問、副会長、理事、委員長の皆さんから、近況報告や経済・社会情勢に関してのお言葉を戴きました。

当日ご出席頂いた方々は以下の通りです。
(敬称略)

- (会長) 和田成史
 - (顧問) 長谷川正二郎、鈴木紀子、倉石昇、谷田権、吉見善夫、中島一彰
 - (副会長) 上原洋一、梅田憲司、戸井田和彦
 - (理事) 中島淑夫、富澤麻利子、中島弘人、大屋高志
 - (委員長) 井口一世、昆凡子、山田晴久、長倉一裕、守屋裕之、徳澄範光、安東隆司、上小牧政章、湯浅修
- 以上23名

—湯浅 修 S59産—



17年ぶりのインカレ優勝!!

立教大学体育会 モーターボート・水上スキー部

立教大学体育会モーターボート・水上スキー部は、創部1962年、今年50周年を迎えました。日本の水上スキークラブの中でも最も古くから活動している歴史あるクラブのひとつです。

立教は深い歴史もさる事ながら競技でも慶応義塾大学に続いて2番目に多いインカレ優勝回数を誇っています。しかしながら近年、低迷が続きました。1995年以来、実に17年間インカレ優勝から遠のいていました。部員数も激減し、最も少ない時期は部員数5名という時期もありました。17年間の間に優勝のチャンスも何度かありましたが期待をかけても勝てない年が続きました。

そんな中、昨年、16年ぶりの優勝のチャンスがめぐってきました。実に立教らしい個性ある4年生を中心としたチームでインカレの前哨戦であるチャンピオンシリーズで続けざまに優勝。これを受けてOB会も立ち上がりました。できる援助は惜まず、インカレ会場である秋田県大潟村にも多くのOBが集まりました。しかし、ライバル慶応義塾大学に僅差で敗れてしまいました。

この敗北が大きな転機になりました。積年のライバルである慶応義塾が優勝し、歓喜に沸く姿を目の当たりにしたこ

とで現役、OBにもスイッチが入りました。他校と比べて圧倒的に若い伊藤圭太(平成16年度卒)を監督に抜擢、最新の理論を取り入れたコーチングができる体制に一新、これまで4週間だった海外合宿も8週間に延ばしました。また、パワーのある最新のボートがどうしても必要ということでOB会が一丸となって費用を工面しました。

一方で技術の上達だけでなく教育としての水上スキーだということも徹底しました。立教らしいスマートで自立した立教人を目指して活動してきました。インカレを迎える頃には他校とは明らかに言動、行動、顔つきが違うチームを作ることができました。

「オール立教」で作上げたチームで今年もチャンピオンシリーズに全勝し、迎えたインカレでは他を寄せ付けない圧倒的な記録で3種目全て優勝し、完全優勝を果たしました。



また、今年は50周年ということで200名を超えるゲストを迎えホテルニューオータニで式典を行いました。チャプレンをお迎えし、他校にはない厳かな式典とおしゃれでにぎやかなパーティで立教らしい良い会になりました。

すでに現役選手は来年の優勝に向けて走り出しています。下級生のインカレである全日本新人戦においても総合優勝し、はずみをつけました。

来年、男子は連覇、女子も17年振りの優勝を果たし、近い将来、立教大学体育会に刺激と勢いを与えられるような部に成長したいと考えています。

なかなか触れる機会のないマイナー競技ですが、温かい目で今後ともご指導をお願い致します。

—津村 政吾 H20 社—
—神津 港人 H4 営—



対外交流委員会主催 2012経済人交流ゴルフ実施報告



対外交流委員会主催の「2012 経済人交流ゴルフ」が今年も盛大に行われました。昨年2011年に9月17日に行いましたが、2012年も9月17日(敬老の日)に行われました。本年は東京都稲城市の「よみうりゴルフ倶楽部」にて27名のご参加を頂きました。

対外交流委員会は立教経済人クラブメンバー内交流のみならず、立教他団体、他大学の経済人との交流を目的としています。2012年は他大学等の12名の経済人の方々と立教OB 15名、計27名の方の参加を頂きました。



我が立教経済人クラブからは、会長の和田成史氏[50 営 (株)オービックビジネスコンサルタント社長]、副会長の伊藤守氏[49 観 (株)毎日コムネット社長] 理事の大屋高志氏[63 化 (株)フィールズ社長]の上場・店頭公開企業3社の社長をはじめ、沢山の皆様にご参加頂きました。他大学OBを含めると、5名の上場・店頭公開企業の社長・副社長、未上場ながら知名度抜群の企業・その分野では世界シェアや日本有数のシェアを持つ企業、老舗企業の社長・副社長・創業者一族、その道のプロフェッショナルなどの多士済々、華麗な経歴のいろいろな業種の方々が一同に集う催しとなりました。

東京大学、慶應、一橋、学習院、成蹊、東海などの他校卒業生の経済人の方々 2名、ホスト側として立教OB2名の4名での組合せを原

則にゴルフを楽しみました。今年も好天に恵まれ、好スコアでラウンドされた方、ベストスコアを出した方など成績が伯仲致しました。

優勝はグロス45・37=82 ネット68.8 江口夏郎氏[東大 (株)ライトワークス 社長]、準優勝はG38・39=77 N69.8 竹林隆光氏

[成蹊 (株)フォーティーン創業者]、第3位はG45・50=95 N69.8 増岡聡一郎氏 [慶應

(株)鉄鋼ビルディング専務]と、今回は他大学卒業生の方々が上位を独占されました。しかしながら、我が立教も最下位5位は独占しました。(苦笑。順位決定の隠しホールのいたずらでしょうか?)

懇親会は和田会長の挨拶で始まり、参加者皆様全員から一言だけを頂きつつ順位発表を進めました。とても普段は聞けないここだけの業界の裏話、ちょっと飲みすぎてしまった酒豪挨拶など、プログラムに無い内容でも大いに盛り上がりました。

今回も参加されていない方からも豪華な賞品のご協賛を頂き、賞品獲得の都度歓声が沸きあがりました。何の因果か、準優勝で自社製品の賞品が当たってしまった竹林氏から、賞品辞退の申出がありました。沢山の賞品で自社商品以外であればお持ち帰り頂ける背景を考慮し、幹事の判断により準優勝賞品のオークションを実施致し、代金の一部を賞品の代替としてお持ち帰り頂きました。(一部を会へのご寄付として頂戴致しました)

賞品の当たらなかった方々の参加賞にもひと工夫し、立教経済人クラブを表す「RIKKYO EXE」の文字を刻印したゴルフボールや、立教卒業生が経営する有名洋菓子を皆様にお持ち帰り頂きました。

名残り惜しい雰囲気の中、大いに盛り上がった2012経済人交流ゴルフも伊藤副会長の挨拶で中締めとなりました。



<協賛して下さった企業の方々>

(株)オービックビジネスコンサルタント
(株)フォーティーン
(株)帝国ホテル
(株)世界文化社
TANAKAYA トニーローマ三番町店
ゴルフパーフラット 巨牛荘三番町店
リシュモンジャパン(パネライ)
小泉 直氏

-安東 隆司 HI社-



1株 = 1議決権制度の否定へ

最初の問いかけです。

貴方(社長)は、種類株式制度に備えていますか。

2001年(平成13年)

商法改正 種類株式制度を導入へ。
(無議決権株式と、優先配当株式へ)

2003年

通産省傘下の超優良企業であるJパワー(電源開発)を、民営化へ。

2004年

Jパワーが東証上場へ。その時海外売り出し株式を中心に英投資ファンド、チルドレンに9.9%を買い集められ、(通産省の失政)更に通産省に、何処まで(? %まで)保有が可能か打診を続けられた。

一方米国市場では、IT企業のグーグルがNASDAQに公開へ。

1株=多数議決権制度を採用したまま公開が認められた。

2006年

国際石油開発帝石(上場会社)が、拒否権付き種類株式=黄金株=制度を導入。
(日本政府が保有し、外国資本による買い集め防止策です)

2008年10月31日

Jパワーの終値2,895円に対し、32.2%アップの3,830円でチルドレン側の保有株式をJパワー側が全量買取りで結着へ。

その後もNASDAQ公開企業で、1株=多数議決権株式制度採用企業が続く。

グルーポンは1株=150倍の多数議決権株式制で公開へ。

ジンは1株=70倍でマークピカスCEOは38%の議決権を支配しています。

2012年5月

更に上場後のグーグルが、今度は無議決権株式の発行へ。

上場後の既株主に同数の無議決権株式を交付して、株式数の増加=流動性の増加=を行い、今後同社のストックオプションや、M&Aに使用すると声明へ。

8月

フェイスブックが公開。1株=10倍の制度を採用。ザッカーバーグCEOの公開前支配議決権数は57%です。

現在

東証は種類株式制度の定款規定企業の公開を認めていません。ただ公開直前期での規定廃止で、公開を認めています。

しかし証券市場は東証だけではなく、他の市場の存在もあります。まして東証と大証の

合併による新市場では変化も考えられます。ジャスダック、マザーズ、東京プロマーケット、又2012年7月パチンコのダイナムは、香港市場上場へ。

更に沖縄県振興の為11月に発表された、証券取引所以外が選定する沖縄マーケット等です。まして未上場企業の場合この制度の採用は自由であり、定款への規定は経営者の判断です。

(既に実施している企業もあります)

年一回の株主総会での定款変更では、競争に遅れをとります。

定款に入れて置くのは、経営者のリスク管理ではありませんか。

それによる企業の資金調達は、無限の方法が考えられます。

(例えば無議決権株式を、販売力や組織のある商社や団体病院等の銀行以外の株主へ)(又この時販売目標を予め設定した上での転換社債への移行条件設定等のアメ剤条項の使用等も考えられます)

もう一度 問いかけます。

貴方(社長)の種類株式制度(支配権)への対応は万全ですか。

証券アナリスト 検定会員
一谷田 権 S35経一

産学連携 北川電機株式会社



北川電機株式会社は、立教大学理学部数学科1990年卒業の北川秀秋が代表を務める変圧器を製造する会社です。医療機器用トランス、高電圧・高周波トランスを主な製品として国内企業に販売してきましたが、今年2月に台湾企業と業務提携し、相互に製品の供給を行うと共に中国での展開を協同で進めていくところです。

まだ緒に就いたばかりの弊社の海外展開ですが、当初よりTAMA協会のご支援を頂いております。TAMA協会とは、多摩から神奈川、埼玉に広がる地域に集積する中小企業に対し、販路開拓・海外展開、人材育成・確保、産学連携などの

支援を行っている一般社団法人です。

ここで、弊社が利用したPBL(Project Based Learning)事業についてご紹介致します。PBLとは、我々企業と現役の大学生が協力し、企業が抱える現実的なテーマに対して、学生が課題解決に向けた提案をするという事業です。この事業は大学の授業の一貫であり、学生には問題発見解決能力やチーム活動を通じてのコミュニケーション能力を磨くという教育効果が、企業には学生からの新鮮な発想が得られるだけでなく、社員の指導力向上や採用シミュレーションといったメリットが期待されるものです。

今年5月、首都大学東京のPBLにTAMA協会の会員企業7社の企業が参加し、半年に及ぶプロジェクトがスタートしました。弊社のチームは大学院生5名、「海外生産拠点をどこに持つべきか」というテーマを設定しました。学生たちは弊社の事業を理解するところから始まり、調査項目の役割分担を決め、月に2回の頻度で来社して議論を重ねました。最初の関門は6月末の中間発表会でしたが、我がチームの発表は多くの課題を残しま

した。学生の調査能力は非常に高いのですが、各自の調査結果がストーリーになっておらず、プレゼンの表現力も欠けていました。

そこからはモードチェンジ。チームで飲みに行き親睦を図り、工場内で作業を体験してもらったりしました。9月に入ってから最終発表に向けて、発表の内容に私と学生の両方のアイデアを入れ、表現力の指導もしました。そして迎えた10月の最終発表会。トップバッターで登場した彼らは、その重圧も乗り越え見事なプレゼンを披露し、最優秀講演賞という栄誉を手にしたのです。

この事業で感じたことは、学生の伸びしろです。きちんと説明して理解してもらえば、自分たちのオリジナリティーも込めて、見事に仕上げられるだけの力を持っています。このような若い力を社内に取り込んでいくことが、企業の競争力アップに繋がっていくのではないかと感じました。

—北川 秀秋 H2数一

北川電機株式会社
www.kitagawa-denki.co.jp

第61回 立教経済人クラブゴルフ会



平成24年7月16日、立教経済人クラブゴルフ会が開催されました。

昨年と同じく、山元 春三先輩にお願いしまして東京ゴルフクラブです。梅雨なので心配しておりましたが、大変良すぎる天気になりました。

毎年ではありますがフェアウェイ、グリーンは素晴らしいコンディションです。全体にフラットですが、砲台グリーンにたくさんのバンカー、きついラフがコースを難しくしています(たぶん気温もですが)。

和田会長にご挨拶頂き、パーティーが始まりました。今回の優勝は 吉原 克夫氏(S42年卒)です。40、40 の80と言う立派なスコアで、和田会長より優勝カップが渡されました。次回からはシングルかも!? 準優勝は 金原 宏和氏(S60年卒)です。40、46の86でした。和田会長よりクリスタル製の楯が渡されました。

今回の景品は魔王ほか、レアな焼酎やカリフォルニアワイン、オールドパーなど特に酒類が充実しており、アルコール好きにはたまりません。皆さんいろいろと迷っておられました。

最後に 山元 春三先輩に締めのご挨拶を頂きましたが、今年80歳になられたと言う事で一同ビックリです。これからもお元気で、是非ゴルフ会にご参加下さいね。

今回も暑かったので、途中リタイヤが2名いらっしゃいました。これからのゴルフは皆様、どうぞお気をつけ下さい。次回もご参加をお待ちしております。

-長倉 一裕 S59法-



タウンクラブ

2012年9月19日水曜日の19:00からタウンクラブのグルメ会が開催されました。グルメ会は、おいしいお店で会食しながら会員相互の親睦を図るという目的で3月と9月、年2回実施しております。毎回食通の会員から一押しのお店をご紹介いただき、おいしいお酒とお料理で盛り上がっております。今回は、恵比寿にある隠れ家的なイタリアンのお店「レストランテG」を貸しきり状態にして、和田会長をかこんで素敵なコース料理をいただきました。

北海道の旬の素材をふんだんに使ったおいしいお料理とおいしいお酒にみんな大満足でした。お料理が出るたびにフェイスブックにアップするメンバーもいらっしゃいましたからフェイスブックでご覧になった会員もいらっしゃるのではないのでしょうか。グルメ会は、



顔と顔のわかる範囲の少人数のお集まりですので、初参加の新入会員の方も、すっかり会の雰囲気になじんで立教らしい和やかなお食事会になりました。次回は、2013年3月21日を予定しております。

-昆 凡子 S54仏-

連載

グローバルリーダーへの道(第2回)

私は嘗て米国に本社があるグローバル企業に在籍していましたが、リーダーにグローバルという枕詞を付けること自体違和感を覚えます。リーダーはリーダーなのです。米国は人種の坩堝であり、リーダー=グローバルリーダーということになります。

今、色々なところでグローバル論議が盛んに行われていますが、私は

1. 仕事が饒棒にできること、
2. 違うことに敬意を払い、異文化の方々とコミュニケーションが円滑に図れることに集約できると考えています。

技量において、圧倒的な力の差を見せつけないと猛獣使いにはなれません。その意味で、以前、NHKの番組で取り上げられていた世界的なカーデザイナーの奥山清行さんは象徴的な方でしょう。

円滑なコミュニケーションには、まず、異文化の理解が求められます。次に、語学力でしょう。

共通言語として、論理的思考力は不可欠です。欧米人のみならず、アジア圏の人々ですら、日本人のように空気を読むことはできません。いかにわかりやすく明確に伝えることが問われます。プレゼンテーションやディベートの訓練は役に立つことでしょう。

最後に、グローバルマインドセットが土台となります。いくら論理的な思考ができ、語学力に長けていても、このマインドがなければリーダーにはなれません。これは

1. 視野を拡げて俯瞰的に物事を考えることができる(虫の目、現場の目ではなく、鷲の目、経営全体の目)
 2. 軋轢を恐れず自分の考えを臆せず伝えることができる(軋轢こそがイノベーションの源泉)
 3. 好奇心を持って自らチャレンジしていく姿勢(失敗を恐れず、まずは行動ありき)
- の3つに集約できると考えております。

和を以て貴しとするなを信条とされ、世代を越えて多くの外国人から慕われている「イレギュラージャパニーズ」である現・事業構想大学院

大学学長の野田一夫さんの生き様が参考になることでしょう。私の大学時代のゼミの恩師であり、立教大学に観光学科を立ち上げられ、経営の神様と称されるピーター・ドラッカー氏を初めて日本に紹介された方です。

今やGoogleの時代、是非ともお二方を検索され、人物像を探られるとグローバル人材を考えるヒントにならうかと思えます。

-藤田 聡 S62営-

ご質問・ご意見・ご感想があれば、
fujita@v-change.co.jpまで。
蛇足ですが、弊社の中小・ベンチャー企業向け社員力向上支援サービス「人財開発研究所」が先日、日経産業新聞のトップ面で取り上げられました。「中小企業の組織活性化から日本を元気に!」で邁進しております。

ご関心があれば、下記まで。
www.v-change.co.jp/jinzai_kaiatsu

新しく会員になられた方々

(敬称略)

相田 光一

昭和56(1981)嘗
(有)大日の出プランニング
代表取締役
182-0022 調布市国領町3-10-37
TEL:042-442-3399
FAX:042-442-3397
E-Mail:aida@oohinode.jp
URL:http://anshin-takumi.com/index.html
業種:総合保険代理店

大塚 尚司

昭和57(1982)経
(株)オリコム
常務取締役営業本部長
105-0004 港区新橋1-11-7
TEL:03-6733-2130
FAX:03-6733-2551
E-Mail:ootukas@oricom.co.jp
URL:http://www.oricom.co.jp/
業種:4月に90周年を迎えた広告会社です

岡部 歩

平成18(2006)経
ジブラルタル生命保険(株)
東京第4エリア一橋第五支部
101-0003 千代田区一ツ橋2-4-3光文恒産ビル6F
TEL:03-3512-6651
FAX:03-3512-6657
E-Mail:ayumu.okabe@gib-life.co.jp
URL:http://www.gib-life.co.jp/
業種:保険外交員

斎藤 治

昭和60(1985)嘗
加賀電子(株)
営業推進事業部 販売促進四部 部長
542-0081 大阪府中央区南船場2-2-6加賀ビル9F
TEL:06-6105-0430
FAX:06-6271-8223
E-Mail:osamu_s@taxan.co.jp
URL:http://www.taxan.co.jp/
業種:独立系エレクトロニクス商社

斉藤 修弘

平成9(1997)国比
プルデンシャル生命保険(株)
ライフプランナー
141-0031 品川区西五反田1-5-1
五反田野村證券ビル4F
TEL:03-6683-2121
FAX:03-6683-2129
E-Mail:nobuhiro.saito@prudential.co.jp
URL:http://www.prudential.co.jp/
業種:金融

澤田 剛治

平成11(1999)産
(株)フジサワ・コーポレーション
専務取締役
171-0051 豊島区長崎1-10-8
TEL:03-3973-1641
FAX:03-3973-2517
E-Mail:ksawada@fujisawa-corp.co.jp
URL:http://www.fujisawa-corp.co.jp/
業種:大型インクジェット出力

白土 良之

平成9(1997)物
ユニークビジョン(株)
代表取締役社長
151-0051 渋谷区千駄ヶ谷3-38-10
E-Mail:shirato_yoshiyuki@uniquevision.co.jp
URL:http://www.uniquevision.co.jp/
業種:ソーシャルメディアを活用した
ウェブコンサルティング開発

古家 慶介

平成12(2000)嘗
(株)情報システム工学
主任
108-8223 港区港南2-16-2太陽生命品川ビル23F
TEL:03-6716-0811
FAX:03-6718-1736
E-Mail:
URL:http://www.ise-group.jp/
業種:情報サービス業/受託ソフトウェア開発

宮本 英一

平成12(2000)嘗
(株)キングジム
商品開発部 開発四課
101-0031 千代田区東神田2-10-18
TEL:03-3864-8080
FAX:03-3864-8078
E-Mail:miyamoto-e@kingjim.co.jp
URL:http://www.kingjim.co.jp/
業種:文房具製造・販売

八本 隆文

昭和60(1985)観
郵便局(株)帝国ホテル内郵便局
局長
100-0011 千代田区内幸町1-1-1帝国ホテル内郵便局
TEL:03-3591-2993
FAX:03-3580-4989
E-Mail:takafumi.yamoto.ds@jp-network.jp
URL:http://www.japanpost.jp/

2012年度 事業計画書

| 開催日 | 事業 | 場所 | 参加募集 |
|------------|---------|-----------|-------|
| 2013年1月30日 | 新春賀詞交歓会 | 日比谷松本楼 | 募集します |
| 2013年3月 | 朝食勉強会 | 講師・場所とも未定 | 募集します |
| 2013年3月21日 | グルメ会 | 場所未定 | 募集します |

立教経済人クラブ ウェブサイト

<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。
ぜひご覧ください。

運営委員会に参加しませんか?

経済人クラブの運営を手助けしてくれる有志を求めています。毎月1回の運営委員会に参加して頂き(本業優先で結構)、自分の役割を片手間にこなして頂くだけです。特別な資格、スキルは一切ありません。本業に影響が出るようなこともありません。必要なのは、経済人クラブの仲間と交流したいと思う気持ちだけかな!?

打合せ終了後の飲み会が楽しみかも?



編集後記

平成8年に立教大学を卒業しました。立教経済人クラブでは、まだまだ若い(?)部類に属していますが、すでに卒業後15年以上になります。自身の環境も随分変わりましたが、最近、仕事関係や、プライベートも含めて、母校とかかわる機会が多くなり、池袋キャンパスや、新座キャンパスを訪れるたびに、在籍していたころと大きく変わっていることを実感します。校舎や外観もそうですが、中身も15年で大きく変わっていると聞いております。大学時代からの知人や、経済人クラブをはじめとした、立教関係の諸先輩、後輩と会う機会はますます増えており、立教というつながりの強さを感じます。そうした集まりの雰囲気等は昔も今も変わらず楽しいひと時を過ごせるのですが、母校の変化を感じた時、これから先もこうしたつながりが続いていくのかと、ふと思うことがありました。そんな時、母校のことを、我々も知る機会があってもいいなと思い会報を通して大学の近況(学校そのもの、スポーツ等いろいろな角度の情報)などをお伝えしていきたいと思えます。

一品川 高穂 H8経一